

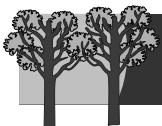


フィンランド教育研究事業について

フィンランドは、様々な教育部門で世界最高水準を誇る国として世界から注目をされております。そこで、本年度から2ヶ年間、日本フィンランドセンター財団が実施する日本・フィンランド学校プロジェクトに参加し、フィンランドへの現地視察など相互の交流を通して教育システムやカリキュラム、指導方法の違いなどを広く研究していくとの事であります。

去る3月には、フィンランドから3名を視察団が本市を訪れ、学校訪問や比較研究の対象などについて意見交換が行われ、5月には、本市から8名の視察団がフィンランドを訪問し、授業参観や研究協議を行いました。

今後も更に1回ずつの相互訪問を重ね、日本で開催される教育セミナー等で研究発表を行う予定との事で、これらの取組みが地域から信頼される学校を創り上げ、本市独自の教育政策の推進につながっていく事を期待するものであります。



万葉植物苑について



本市では、郊外に残された貴重な緑地を保全すべく、保全緑地等の公有地化に努めてきました。市の天然記念物である「一輪草」の自生地となっている「安行赤堀用水沿い斜面林保全緑地」もその一つであります。

こうした中、この保全緑地を管理・保護する地元ボランティア団体「安行みどりのまちづくり協議会」の皆さんの手により、昨年公有地化を図った土地を活用し、緑地の整備がなされ「万葉植物苑」として、本年4月に開園をいたしました。この植物苑は、

多彩な植物を容易に入手できる「植木の里・安行」の強みを活かして、万葉集に詠まれている約160種の植物のうち、約120種が一堂の集められており、四季を通じて、誰もが身近に楽しむことのできる本市の新たな名所であります。市民の皆さんの自発的な取組みと十分に市は連携を図りながら計画的な緑地の保全に努めてもらいたいものであります。



湘南新宿ラインの川口駅停車を求める署名活動 実施中！

本年6月9日より定期的に川口駅東口、西口デッキ上で上記を実現するべく署名活動を行っております。川口駅は一日16万人以上が利用しており、朝夕のラッシュ時に電車が止まった時等の混雑ぶりは目を覆うほどであります。そこで新藤代議士を中心とした自民党川口議員団が一丸となってJR東日本に要望をおこなっており活動の一環であります。